教職科目Ａ，初等社会科教育法
担当教員：福田　喜彦

初等社会科教育法におけるＦＤ活動への取り組み

社会科教育講座・福田　喜彦

１．授業の目的と達成度

本授業は，社会科の性格，目標と内容，授業構成の仕方，指導計画と評価の方法などについて理解すると共に，実地講師や「授業研究」を通して社会科授業における実践上の諸問題や指導上の留意点について把握することを目的としている。

本授業では，シラバスのもとに，「社会科の授業原理」「社会科の内容構成」「社会科の学習方法」「社会科の学習指導計画の立案と作成」「社会科の学習指導のあり方」「社会科授業の評価と方法」の６つのテーマを中心に講義を進めた。本授業での到達目標は，①小学校社会科授業を分析，説明することができる，②小学校社会科授業の実践上の諸問題について，自分の考えをまとめ，論述できる，③学習支援案の立案を行いながら授業を創造，改善していくことができることをめざした。

5 段階評価による受講生 43 名に授業の中で課した自由記述型のアンケートと教育学部の DP との関連性を検討した結果は，以下のようであった。

評価	A	B	C	D	E
DP1	10 名	21 名	5 名	0 名	7 名
DP2	6 名	19 名	9 名	3 名	6 名
DP3	8 名	19 名	13 名	0 名	3 名
DP4	13 名	20 名	8 名	0 名	2 名
DP5	8 名	8 名	23 名	1 名	3 名

評価結果をみると，各項目で C 以上の評価を占める割合が，DP1 は 83.7%，DP2 は 79.0%，DP3 は 93.0%，DP4 は 95.3.%，DP5 は 90.6%であり，おおむね学生は授業の目的を達していたと考えられるが，達していない学生の支援も必要である。

２．実地講師の教職体験を生かした授業改善

本授業では，実地講師の教職体験を生かした授業への改善を試みた。ここでは，実地講師担当の授業を聞いて，①「社会的な見方や考え方を育てる社会科授業の指導とは」，②「体験的・問題解決的な学習を社会科授業で取り入れていくためには」，③「楽しくよくわかる社会科学習をつくるためには」，④「子どもを多面的・多角的に看取る評価を工夫していくためには」，⑤「これからの社会科授業づくりで特に，取り組んでみたいと思うことや気になったこと」の５点について学生に意見を出してもらった。本稿では，⑤に関する意見から学生の社会科への授業観を検討する。

「子どもたちに問題意識を持たせながら学習を進めていくことが大切であるということです。ただの暗記になってしまうと，子どもたちは興味・関心を持てないまま学習が進んでいってしまいます。だから，子どもたちが「なぜだろう」「どうしたらこの問題を解決できるだろう」と自ら考えることができる授業をしたいと思います。」「これからの社会科授業づくりで，特に，体験的・問題解決的な学習についての教材開発に取り組んでいきたいと考えた。施設を一つ見学に行くことでも，児童の成長は，何を見学し，何を考えるか大きく変わってくる。子どもにとって一番意味のある学習にするために，どのようなことに配慮し，授業をつくっていくかをしっかり考えていきたいと思った。」「社会科において具体的な社会事象をいかに効果的な教材として授業に取り入れるかということはとても重要な課題であるため，子ども視点，立場を考慮したうえで適切に取り入れたい。（中略）また，子どもの発見から課題を引き出し，新たな問題として提起できるような応用力も身につけていきたいと思う。」「学習集団づくりのポイントについて学び，意識して実践していきたいと思いました。特に「学習ルール」づくりに力を入れたいです。今回学んだ問題解決型学習を成功させる上で，個も重要ですが，同時に集団で何かをし，まとめ，発表し合うことも多く取り入れているため学習のルールをつくり，子どもたちの指標を示したいです。」（複数者による回答）

下線部をみてみると，講師の話から子どもに問題意識をもたせる授業とはどのようなものか，体験的・問題解決的な学習の教材開発とはどのようなものか，集団学習を成立させるためにはどのようにすればよいのかなど子どもの主体性を生かした社会科授業のあり方を模索し，自らの社会科

に対する授業観を広げている様子が看取できる。

３．本授業に対する学生の意見と改善への視座

本授業の最後では，「初等社会科教育法」の授業に関する理論と実践を踏まえて，社会科の学習指導案づくりを実施した。その中で，疑問に感じたことや気がついたことを答えてもらった。以下は，複数の学生からの意見をまとめたものである。

「今回指導案を作成して最も意識したのは子どもの意識の向く方向である。私は今回の課題で初めて歴史学習を授業単元として扱ったが，単なる知識付与になりかねない部分が多くあると感じた。歴史の流れを年表に沿って教えるだけでは歴史学習の目的を果たすことができず，不十分なものとなる。いかに自分たちの「今」がそれまでの歴史の上で成立しているのかを意識させ，歴史が決して過去のものなのではなく，流れとして今に至っていることを子どもに理解させることが重要であると考えた。地理的分野や公民的分野のように現在のことを扱うのではないからこそ，具体例を出すのが非常に難しく，教科書にあることを淡々と教えるにとどまってしまう部分がたくさんあった。だからこそ丸暗記になる可能性もあるので，一つの時代を様々な視点から見て考察するヨコの学習と，時代の流れを意識してそれぞれの時代の特徴をおさえ別の時代との比較，関連をさせるタテの授業が必要なのだと思った。」（歴史学習，６年生）

「実際の授業では，大まかな発問以外にも児童のやりとりで授業を進めていく場面もある。導入でどのような話で授業内容に入っていくのか，まとめでどのような話をして終わるのかそのようなことも大切だと感じている。しかし，指導案には大まかな発問と予想される児童の発言，指導上の注意，評価する点を書く。私が大切だと感じた児童とのやりとりの部分を記入することがないため，指導案だけでは物足りないように感じた。実際の現場の先生方は，指導案に書かれていない細やかなやりとりの部分は，ある程度考えておくという程度にとどめているのか気になった。また，45 分の授業を作成するのに，莫大な時間がかかることに驚いた。指導を作ることに，学習指導要領の目標や内容をきちんと読み，児童観や指導観も考えなければならない。さらには，授業で使用するためのデータや資料の収集が必要である。他に，実際に学校から離れて社会見学に行くなどしたら，アポイントメントを取ることや，移動するにもバスの手配なども教師の仕事になる。現場の先生方は，このように実際の授業時間 45 分より何倍もの時間がかかる授業準備を他の仕事の合間にどのように行っているのか大変気になった。」（国土学習，５年生）

「小学校社会科の授業案を作成してみて，私は二つの発見があった。まず一つ目は，社会科が暗記科目ではないということだ。私自身，小，中学校，高等学校での社会科のイメージでは，暗記して，テストが解ければよい教科というイメージがあった。答えはいつも一つで決まっており，話し合いやグループ活動よりテストが重視されている科目だと思っていた。しかし，実際自分が評価方法にについて調べて，考えていくうちに暗記だけが大事な教科ではなく，いろいろな意見をもってそれらを他者と共有しながら理解を深めることに意義があるのだと感じた。確かにテストも評価の対象となる点ではあるけれど，そういった授業での取り組みに関する評価の重要性を知ることができた。もう二つ目は，テーマの身近さだ。算数や理科と違って，社会科の扱う内容が改めて私たちの生活にとても密着した内容であると感じた。今回私が設定した授業自体は地域社会のことを扱ったものであるが，普段生活している場に近い内容であったため，作る側としてもイメージがしやすかった。一方で，思っていたよりも知らなかったという驚きもあり，社会科の魅力を身をもって体験することができた。」（地域学習，３・４年生）

下線部に示したように，学生は指導案作りを通して，社会科の学習単元の構想，社会科授業での子どもの評価，社会科の教材研究の方法，子どもが興味・関心をもつ社会科授業など多様な視点から社会科授業をどのように構成していかなければならないかを学んでいる。一方で，学生からの疑問を来年度の授業に生かす方法が課題である。

４．本授業の総括と次年度へ向けた課題

３年生から６年生までの社会科の学習領域を講じながら，学生が社会科の授業をできるだけ具体的なイメージをもって，受講できるように資料や映像をもとにして授業を進めたために，授業の内容が多岐にわたった。５０分の時間配分を考えながら，子どもの思考や学習活動に合わせて授業を進めていくためには，学生がみずからの指導案をもとに授業を行うことは社会科の授業力実践の向上に当たっても必要な能力である。さらに，より社会科授業の内容と方法を学生が模索できるように今後の授業計画のあり方を再考したい。